

令和7年度学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒が「見方・考え方」を自在に働かせられるような、教師の専門性の発揮と不断の授業改善を実施する。</li> <li>②KU（総合的な探究の時間）において、探究のサイクルを複数回回すとともに、外部コンテストを活用するなど、成果を発表できる機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新カリキュラム施行3年間の経験から課題を整理・分析し、資質・能力の三つの柱を育成する教科指導を実施する。</li> <li>②-1 教師一人ひとりのゼミを開設し、学年や年度を超えた指導体制をつくり、きめ細かな生徒支援体制を構築する。</li> <li>②-2 積極的な外部コンテストの参加・応募を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒による授業評価（全体）の項目1～6について、肯定的回答割合が9割以上である。</li> <li>②-1KUの指導体制について教師にアンケートを実施し課題を抽出し改善を図った。</li> <li>②-2 外部コンテストへの参加・応募が前年度より増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教科で公開研究授業を設定し、6教科で公開研究授業を実施した（現時点で4教科実施）。授業互観が活発に実施された。</li> <li>②教師一人当たりの担研究数は6～8研究となり、きめ細かな指導体制を構築できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今年度から各教科で公開研究授業を設定したことによる効果を検証し、次年度の実施に活用する。授業の質向上を図るため、より目的をもった授業互観を実施する。</li> <li>②次年度以降、KUが2年生にて1単位増加され、2単位実施となる。その指導体制や授業運用について、これまでの変更を生かしながら検討する。</li> </ul>	<p>授業の肯定的評価が9割を超える点や、積極的な授業公開による指導改善が高く評価された。探究（KU）を中核とした取組や教職関連科目は学びの質を向上させており、今後は外部連携の強化や発表機会の拡大、指導体制の更なる向上が期待されている。</p>	<p>公開研究授業を6教科で実施し、教職員間の授業互観が活発化したことで授業改善の意識が高まった。現行カリキュラム3年間の課題を整理し、探究（KU）では教員1人あたり6～8研究を担当するきめ細かな指導体制を構築できた。</p>	<p>授業の質をさらに向上させるため、目的意識を持った授業互観を推進する。次年度からは2年生のKUが1単位増加し2単位となるため、これまでの変更点を生かしつつ、効果的な指導体制や授業運用について具体的な検討を継続していく。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。</li> <li>学校行事や生徒会活動において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。</li> <li>生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校行事や部活動に参画する経験が、生徒の主体性や創造性、社会性を高めることを意識させる。</li> <li>②様々な場面での活動を通して、生徒の主体的な活動を支援する。</li> <li>③生徒の状況を把握、共有し、必要な支援を組織的に行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①所属する集団の中で自身の役割が何かを自覚させることで、主体的な行動を促す。</li> <li>②生徒会や委員会などを主として運営する生徒と教職員の連携を密にし、学校行事の成功に向けて集団を導く力が身につくように支援する。</li> <li>③生徒一人ひとりの心の健康についても、心のアンケート等を利用して働きかけを行い、必要に応じてSC・SSW等とも連携して学校全体で見守る体制づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのまとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上である。</li> <li>②学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上である。</li> <li>③すべての必要な生徒の状況について、SC・SSWを含め情報共有を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①どちらも肯定項目が8割以上の回答を得ることができ、目標を達成することができた。</li> <li>②3大行事すべてで肯定項目が8割以上の回答をえることができた。</li> <li>③今年度の第1回かながわサポートドックを活用し、プッシュ面談を通して得た情報をSC・SSWから教員へと情報共有をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続き良い結果につながれるように、クラス経営や部活動経営が充実するように支援していく。</li> <li>②引き続き良い結果につながれるように、実行委員を中心として行事が成功するようにサポート体制を構築していく。</li> <li>③第2回かながわサポートドックの結果を活用し、この期間における生徒の変化を確認しながら、プッシュ面談を利用して状況理解と情報共有を行っていく。</li> </ul>	<p>行事や部活動への満足度が高く、生徒の主体性やリーダーシップが育まれる好循環が評価された。SCやSSWと連携した見守り体制や「かながわサポートドック」による面談も有効に機能している。今後も丁寧な指導と、全生徒への更なるサポート体制の継続が望まれる。</p>	<p>学校行事や部活動への満足度が目標の8割を超え、生徒の主体的な参画が得られた。三大行事も成功し、専門スタッフ（SC・SSW）と連携した「かながわサポートドック」の活用により、生徒の状況を組織的に見守り、情報を共有する体制が整った。</p>	<p>引き続き高い満足度を維持できるよう、クラスや部活動経営への支援を充実させる。行事では実行委員会を中心としたサポート体制を強化する。また、サポートドックの結果から生徒の変化を把握し、プッシュ型面談等を通じて迅速な状況理解と情報共有を徹底する。</p>
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>高大接続を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による将来の自己の在り方生き方の探究を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりに高い目標を意識させ、最も志望する進路が実現できるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 総合的な探究の時間をはじめとした各教科・科目における教育活動が、生徒のキャリア形成につながるよう、キャリア教育、キャリア支援の充実を図る。</li> <li>①-2 生徒が最も希望する進路を実現することができるように、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスをはじめとした各種ガイダンスや、夏期講習等の学力向上に向けた取組をさらに充実させる。</li> <li>①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」やその関連科目の形態・指導内容について一層の拡充を図り、教</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上である。</li> <li>①-2 キャリアガイダンスや夏期講習・勉強合宿等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、前年度より多く行われた。</li> <li>①-3 学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」において、充実した支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上の回答を得ることができた（92%）。</li> <li>①-2 勉強合宿を2日程行うなど、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、前年度より充実した形で実施できた。</li> <li>①-3 「教職基礎演習」履修済み生徒に対し、横浜国立大学教育学部総合型選抜の対策講座を毎年行い、進学を支援する体制の充実を図った。なお次年度、学校選択科目「教職実践」を開講予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 引き続き、生徒の進路実現のために、ガイダンスや模試結果のアセスメントなどを通してキャリア支援の充実を図る。</li> <li>①-2 本年度、希望者多数の状況を受けて、施設と折衝し、より多くの生徒を受け入れられる態勢を整える。</li> <li>①-3 これまで特別講座として対応してきた進路支援をいかに学校設定科目の中にカリキュラムとして落とし込んでいくかを検討する。</li> </ul>	<p>手厚いキャリア教育や教職志望者への充実した環境が、希望進路の実現に繋がっている。一人ひとりに寄り添う丁寧な指導が成果を生む一方で、今後は進学実績のみならず、結果を出せずにいる生徒への支援の在り方についても積極的な評価や可視化を期待する声が上がっている。</p>	<p>キャリア教育による成長実感は92%と高く、勉強合宿や各種ガイダンスの充実が進路実現への意欲を高めた。横浜国立大学との連携による教職志望者への対策講座も成果を上げている。</p>	<p>模試結果のアセスメントを通じた支援を深めるとともに、希望者増に対応できるよう勉強合宿の施設態勢を整える。また、これまで特別講座として実施してきた進路支援を、学校設定科目の中にカリキュラムとして体系的に落とし込み、指導内容の一層の拡充を図る検討を進める。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②生徒が将来の自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、キャリア支援を充実させる。	育学部をはじめとした教職に関わる大学への進学を支援する体制づくりを行う。 ②-1 生徒の進路実現を図るために、生徒・教職員へのガイダンス・周知を行い、協調して支援・指導をする体制づくりを行う。 ②-2 進路実現に向けて令和7年度以降入学生の教育課程の改善を進める。	②-1 生徒の進路実現という視点を踏まえたガイダンス・周知を行い、協調を図った。  ②-2 各教科から丁寧に意見を吸い上げ、教育課程の改善を進めることができた。	②-1 生徒・担任へのガイダンスについて、外部リソースを活用しながら行い、円滑に、充実した進路支援が行えるよう協調した。 ②-2 各教科の特性を鑑みながら教育課程の改善について検討した。	②-1 より多くの教員が納得感ある形で進路支援を行えるような論理や資料提供などを充実させる方策を検討する。  ②-2 改善の方策についてより具体的に、可視化して、実践を促すための方策を検討する。			
4	地域等との協働  ・地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 ・学校の魅力と特色を積極的に発信する。 ・横浜国立大学との連携の強化を図る。	①地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 ②学校の魅力と特色を積極的に発信する。 ③横浜国立大学との連携の強化を図る。	①近隣学校との交流事業を推進する。 ②本校の受検を検討している中学生とその保護者に向け、ホームページを活用し、積極的な情報発信に取り組む。 ③横浜国立大学のリソースを活用し、大学との連携をさらに推進させる	①参加した生徒が協働や多様性について考えることができた。 ②学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が8割以上である。 ③横浜国立大学との連携を強化できた。	①保土ヶ谷支援学校と交流事業を行い、職業の授業を通して交流を深めた。 ②第1回から第4回まで学校説明会を行い昨年より約200名来校者が増加した。アンケートの固定項目は9割9分以上であった。 ③研修会や作業部会を通して、互いの理解を深めた。	①対象学年の教職員の呼びかけにより、1回目よりも2回目の方がより多くの生徒が参加することができた。2回目もお互いにとって良い刺激があり、交流を深めることができた。また、今年度は保土ヶ谷支援学校のバザーにも参加し、実際に職業の授業で作成したものの販売に参加し、より多くの経験を積むことができた。 ②来年度の学校説明会に向けて準備を進める。 ③連携の成果を発信する。	特別支援学校との交流や中学校での学習支援を通じ、生徒が多様性や社会性を学ぶ貴重な機会となっている。学校説明会の来校者増や高評価は、積極的な魅力発信の成果である。今後は小学校との交流拡大や横浜国立大学との更なる連携強化により、地域資源を一層活用した教育活動の充実が期待される。	特別支援学校との交流やバザー参加を通じ、生徒の社会性や多様性への理解が深まった。学校説明会は来校者が約200名増加し、肯定的回答も9割9分以上と極めて高い評価を得た。横国大とともに行う作業部会等を通じ、相互理解と連携がさらに強化された。	より多くの教職員が進路支援に納得感を持って取り組めるよう、論理的な資料提供や教育課程の改善案の可視化を進める。地域や大学との連携成果を積極的に外部へ発信し、学校の魅力を高めるとともに、次年度の学校説明会に向けてより充実した情報発信体制を構築する。
5	学校管理 学校運営  ・学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組む組織とする。 ・生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ・生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①管理職を含め、教職員同士が目的意識を共有し、日常的な情報交換・コミュニケーションを図る。 ②質の高い授業の実施、教育相談体制の充実、教育施設や防犯体制の拡充を図る。 ③教務及び学務に関する校務の見直しを進め、事故防止及び業務の効率化を組織的に進めていく。	①多様な職員研修を実施し、日常的な情報交換・コミュニケーションの環境づくりに努める。 ②生徒の状況把握や教職員の連絡体制を充実させる。 ③校務支援システム等を活用し、学校と保護者の間のコミュニケーションについて、ペーパーレス化を推進するとともに、日々の教務関係の業務改善を図る。	①多様な職員研修の実施回数が8回以上である。 ②職員への情報発信による共有化に努めるとともに、学校から外部への情報共有が推進できた。 ③校務支援システム等の活用結果、業務の改善により効率化が図られ、残業時間の軽減につながった。	①職員全体で実施した研修は次のとおりである。 4/2, 4/18, 5/1, 7/10, 7/24, 8/26, 11/6, 1/6 ②職員間 Teams による情報共有と公式の Instagram にて情報発信を行った。 ③情報共有の際のペーパーレス化、及び、家庭からの欠席連絡のオンライン化により、業務の軽減傾向が続いている。また、定期テスト採点業務軽減に向けて、テスト採点システムを複数教科で試行できた。	①少人数や複数回に分けた研修など研修の形態を検討する。 ②引き続き情報共有に努める。 ③校務支援システム等の新しい機能の活用などを積極的に検討し、業務効率化を進める。特に、採点システムについて、全教職員が活用できるよう、マーク形式採点の検証を進める。	校長のリーダーシップのもと、ICT活用や情報共有による業務効率化が着実に進み、組織の方向性が明確である点に安心感がある。働き方改革を推進しつつ、教職員が個々の力を最大限発揮できる環境づくりと、デジタル化を進めつつも指導の質を維持・向上させる配慮が求められている。	多様な研修の実施や、Teams・Instagram等のデジタル活用により、教職員間の情報共有と外部発信が円滑化した。欠席連絡のオンライン化等のペーパーレス推進により業務効率化が進み、テスト採点システムの試行導入も複数教科で開始した。	少人数制など研修形態を工夫し、目的意識の共有をさらに図る。校務支援システムの機能を積極的に活用し、さらなる業務負担軽減を目指す。特に採点システムについては、全教職員が円滑に活用できるように、マーク形式採点の検証と運用の改善を重点的に進めていく。